

---

# 理系のとりっぷらいふ

佐喜真 寿々子

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

理系のとりっぷらいふ

### 【Nコード】

N9495Y

### 【作者名】

佐喜真 寿々子

### 【あらすじ】

理系の大学生 冴木 琴子は不思議なおばあちゃんの家で不思議な通路を見つける。

するとおばあちゃんがよく話してくれた世界に飛ばされて？

おばあちゃんの教えを元に突き進んじやえ的な作者的には王道満載にしたつもりの駄文です。

# 1 プログ

「ことー、合コンいかなーい？」

「ごめーん、今日ちよつと様子見たいのー。」

冴木 琴子。22歳。理系が発達している某そこそ有名な大学に通う、研究暗記大好きな変人。

昔から暗記力がよくておばあちゃんの大きな菜園でハーブの効能や薬草の効能を覚えていく内に将来は理系になると決めていた。

その名前の通り、豎琴と琴が得意だった。

おばあちゃんはよく、不思議な世界のお話をしてくれた。

魔法があつて、綺麗な世界。

おばあちゃんはおじいちゃんがなくなってからすこしすると、忽然と姿を消した。

私のお父さんが一生懸命探して、お母さんとお父さんのおかあさん、もう一人のおばあちゃんがいつぱいいた。

暫くして、おばあちゃんは帰ってきた。

でもその後、すぐに眠ってしまった。

眠ったまま、天国へ行ってしまった。

明日は久しぶりに講義がないし、先輩に世話を頼んでおばあちゃんの菜園にいくつもり。

おばあちゃんは小さな山を買い取った。

田舎の山を。

その中腹くらいに建物と菜園があった。

私は終電に揺られながら、思いに耽った。

おばあちゃんとおばあちゃんはとても仲良しだった。

レイラさん、麗子さん、といっつも笑あって。

おばあちゃんはなぜか、小さい時の写真がなかった。

写真にでてくるようになったのはおじいちゃんと結婚してからだった。

おばあちゃんは日本人だと言い張っていたけど、白い肌に青いたれ目は外人だった。

それに、ちょっとだけ、耳の形も違った。

私は白い肌しか、おばあちゃんに似てない。

『ことちゃん。容姿よりも内面よ！イケメンなんてぽいして、平凡に走りなさい！』

わたしの容姿のことをいったのに、なぜかずれている。

ふふふ。と笑ってしまうわたしはどうみても不審人物だろう、それかよっているか。

自分の肩にかかった内側にむかって伸びている髪をおばあちゃんは褒めてくれた。

真っ直ぐじゃなくて内側に。

おばあちゃんの髪は、クルクルしてて、羊の毛のようだった。

それがテンパというものよ。

とお母さんとおばあちゃんは笑ってた。

おかあさんの髪もクルクルしてたから。

ねえ、おばあちゃん。おばあちゃんは今、どうしていますか？

ふたりのおじいちゃんとおばあちゃんは、白い雲の上で、お茶会をしてそうだ。

電車の最終一個手前で降りる。

そこから深夜特急バスに乗る為に。

夜が明けていく

私はブルブルと震えるケータイを見つけた。

「はい、もしもし、…。」

わたしの親戚は、いなくなった。

麗子おばあちゃんは、心筋梗塞で、

お母さんとお父さんは交通事故に巻き込まれたそうだ。

「……。なん。で。」

私は携帯を放り出して山を駆け登った。すぐに息切れしたけど、それでも登った。

やっと見えた緑に囲まれたお屋敷。

これは嘘、今日ここで落ち合う約束、してるもん。

わたしは汗をかいていた。

悪夢から目を覚まそうと、自分の部屋に駆け込み、柔らかい素材の洋服を掴んで、お風呂に湯を沸かし、シャワーで、全てを忘れようとする。

開放的なお風呂に入っていると、さっきのは悪夢、落ち着いて、と自分の声が聞こえた。

わたしは洋服を着るとベットに倒れこむようにして眠った。

「ん、うう。」

頭痛がする。体が重い。髪が目にかかって邪魔。

わたしは髪をセットすると不自然なことに気づいた。

なんでおばあちゃんの部屋？

おばあちゃんとわたしの部屋はよく似てるし、隣だけど、決定的に違うところがある。

|||||

駄文をお読みくださりありがとうございます。初投稿で、使い方が  
いまいちよくわかりませんf^\_^;)



## 2 プログ (前書き)

いやー、前回、長くなってすみません。 m ( ) m  
かった。 m めっちゃ長

## 2 ププログ

それは一つの大きな筆筒。

わたしは無意識にその大きな筆筒に近づく。

「あれ？なんだろう。」

キラリと何かが筆筒の中で光る。

手探りで掴んで、手繰り寄せると

【ガゴツ】

……え？今不吉な……

【ゴト】

と筆筒がズレる。

そこには

壁に小さなドアがありました。130cmくらいの。

『女は度胸よ!』

頭の中で蛇がでてきたときにいったおばあちゃんの声が聞こえる。

わたしは恐る恐る進んだ。

3分もしたろうか、ようやく前が開けてくる。扉は小さかったけど、中は縦幅があった。

暗い石造りの廊下をあるいていると、孤独感に溢れる。

「おばあちゃあーん。。。。」と、半べそで言って見る。

壁にこだまして、虚しくなった。

「あ、」

なんか、嫌な予感がするなあ。。。。

ポトツ！

放りだされた白い世界。

そして、

またもや、

ー  
ボ  
ト  
ツ

## 2 プログラ（後書き）

進まないー（ー；）

### 3 パジャマで落ちました。(前書き)

いや、ほんと、グダグダ駄文。





背が163cmでも22だ。

流石に恥ずかしいのだ。

「ていうか、ダルクなーい？」

さっきまでのだるさが一切ないのだ。

羊のスリッパでは走ることができないのに、無謀にもスキップしようとしたら

躓いた。

転げ落ちた。

「イタタタタ。。。もー、いったいなあ！」

とブツブツいいながら歩く。

哀れな羊はボロボロで、ワンピースには泥がついたただけだが、羊はほんと、ボロボロ、木の枝やらなんやらにひっかかったのだ。

今が春だったことに感謝感激だ。

秋であれば落ち葉やらなんやらでもっとひどくなっていただろう。

暫くすると小さな集落があった。

### 3 パジャマで落ちました。(後書き)

ひーひー。やっとプログ終わったようー。

因みにこの世界は一月だいたい60日あります。

#### 4 順応能力は高いんです。(前書き)

マジ駄文NOW――〇

#### 4 順応能力は高いんです。

2ヶ月後（113日後

「コトー！」

「ボオエフ！」

と鈍い音を立ててベットのの上にダイブした少年

「色気ねえなー。」

「るっさいわクソガキ！レディの部屋に、ベットに毎度毎度とびこむなっっていつてるでしょー？」

「メシできたってー。ポタージュにロイブの蒸し焼きにリイモ・シユツガだとよー！」

ロイブとはこの時期とれる川魚なのだが、ぷりっぷりでアマーイ、鮭の食感がエビに、味がウニのような美味しい食べ物で、リイモ・シユツガとは里芋のような芋を蒸して砂糖をまぶしたスイーツだ。

「ママンのポタージュ、美味しいのよねー。」

恐らく、リイモで出来たちよっとネバーとしたポタージュだろう。

「それより、リュイ、ヒナミちゃん振ったって本当？」

リュイは今お世話になっているラグズドウス家の一人息子で、現在16歳だ。

時の流れが違うので私はいま20だ。ヒナミとは16の可愛い女の子だ。

ちよっとお嬢様だけど。。

リュイ、ことリュカス・ラグズドウスはほんと美形だ。

逆3角の小さな顔、大きな青い目、金色にひかる髪。

身長は168くらいなのに行動ががき臭いのだ。

ベッドダイブするわ仕事中にちよっかいだすわ。

槍が得意でかっこいいのに。

「俺にはコトコがいるからな。」

「シスコンも大概にしてねー。」

ヒナミちゃん、可愛いのに…

「コトおはよー?」

と満面の笑みでというか、ヘラヘラしているパパン。

「コトちゃんー、オーブンが壊れたあー。」とベソ書いて泣きつく  
ママン。

そして修理するわたし。

というか、ネジが緩んだだけなんだけど。

「コトちゃんー、お風呂が壊れたー!」

「コトちゃん!! どうしよう、お花が枯れちゃうっ!」

「サエキ!! 猫が変なものたべたー!ー!ー!ー!ー!」

そういう依頼を解決しているのが

コトコ・サエキだ。

「あー、この猫、消化不良ね、4日間、一日2回のお薬ねー。昼過ぎにきて頂戴。」

「この花、単に栄養不足よ、10日分の栄養水つくっといてあげる  
ねー。」

ウチにはだいたい、生物関連が多い。

それに安くていい薬作ってくれると大評判。

香水から毒消しまで、元の世界の知識があつてよかった！。



#### 4 順応能力は高いんです。(後書き)

リュイ君、フラグたってます。これから国とか関わって王様やら王子様やいろいろなでてきます。

## 5 いきなり引っ越します。(前書き)

誰か私に文才を……。困みに私はケータイでもパソコンでもなくiPadでうっていますうちずらーーーーい。おとぼけてこないで、タイトル変更しました。

## 5 いきなり引っ越します。

「こちゃん。悪いんだけど、ウチ、引っ越すことに…。」

いきなりなんですか。この展開。

夕食のデザート、スフレをたべている途中に行きなり切り出されました。ハイ。

「タケフミさんがねえー。」

タケフミⅡパパンの弟さん

「閃いた！ って放浪にでて。」

「そうなんだあー。あの人、放浪癖あるからねえー。」

「…。あーで、進学も近いことだし、王都に引っ越そうと思うんだ！」

「なんでいきなり引っ越すことになるのかわかんないなあ。」

「…タケフミン家にちょっと事情があつてな。でな、」

「ルチアーノさん、ほんとのこと言いましょう。」

「…。宰相にバレタ。」

「…。あー。」

ルチアーノ・パパンは元隣国の騎士で、上位だったばかりで。

「タケフミさんが、放浪の代わりに喋ったのよー。」

あー。うん。お土産、欲しいなあ。

「父さん、俺、コトコがいかないならいかねえぞ。」

「王都ってどこの王都ー？」

「ファオリア。」

ファオリアてことはこの国の王都か。パパンは競争率高いらしくて。。。

「ふうん、いいんじゃない」

ってまてマティ！

「リュイってレヴェルの学校志望じゃなかったっけ？」

「「あちゃあー」」

リュイは帝国レヴェルの帝都の超ハイグレ校志望じゃなかった？

「私、帝都には絶対いかない！」

だって

だって

「変態魔法使い志望がいんじゃん！」

ちょっと前まで、草に話しかけたり、私にやたらなついてる変態がいた。

手を繋ぎたがり、ほっぺにチューしたがり、

…お風呂覗いたり…

ε || ε || ε || ε || ε || ε || 10分後 ε || ε || ε || ε || ε || ε ||

要約 私が行きたがらないから嘘をつきました

「ま、いいや、嫌いて程じゃないし。それより、明日山いつてくるーおやすみー」

歯磨きシテネヨート。。

歯磨きつつつても、ある粉塗して布でキュッキュ拭くだけ！

あとは水でグチュグチュペツ！

お風呂は2日に一回。井戸から川から水をひいてくるんだけど案外便利でポンプがあってポンプに重い石置いとけば水たまる。シャワー浴びれると近代的なんだよねー。

最近は薬草と花を乾かして入れる薬湯もうれてるんだよねー

石鹸は高いからシャンプーみたいなもの作ったらバカ売れして、

ハッカ入りのなんてもー超安定商品。

ビバ！おばあちゃんの菜園ライフ！

## 6 忘れました。(前書き)

お、お気に入り登録アザーーーーーーっす＼（／／▽／／）＼  
ヤバイです、涙です（本当）。

ていうか、見てくれてありがとうございます。ていうか、コトコ  
意外と守銭奴です。鈍いです。長いものには巻かれる主義です。や  
や天然です。

## 6 忘れました。

「うーさーぎーおーいしかーのやまーい！こーいぶー  
なーつーりしかーのかーわー。」

歌を歌いながら山に入るのは蛇や熊に私はここにいろーて教えるため。

噛むカムレモンが恋しくなってきた。。

あの酸っぱいキュートなあれ、食べたいなあ。

そう！レモン！

高いんだよねー、南にあるから。

蜂蜜付けにレモンテイー。レモンタルト！

うう。アイラブジャッポーネ！輸入万歳！空輸万歳！

（注意※この世界にも輸入はあります。たんにレモンは稀少なだけです。レモンに似た物があるのですが見たことないだけです。）

ていうかさー、トリップしたならもつと植物研究したいなあー。遺伝子、クォーク、あーいー！焦れたい。

（注意※コトコは将来有望な遺伝子研究員です）



なんでもっと研究設備がいいトコに落ちなかったんだろ（経緯丸忘れ。

あ、あと半時で日没だ、かーえろつと

「ゆうめーはいいまあもーめえぐーうりいてーわーすれがーたきふるー。さと…」

故郷、どうなんてんだろ、ま、いつか。

## 6 忘れました。(後書き)

お気楽です、檄お気楽です。マジすいません。次話めっちゃ進みます。

## 7 人と馬、拾いました。(前書き)

だれかあー、文才ぷりいずー

## 7 人と馬、拾いました。

ん？なんか、黒い馬と変な人が倒れてる。

馬に一本、矢が刺さり、人には3箇所、かすり傷があったが毒が塗りこまれていたのだろう。かなりくるしそうだ。

「んー。いま持ってる毒消しは一つなのよねえー。馬のほう荷物運べるし、馬のほうがいいっかあー」

おばあちゃんいったもん。役に立つほうを先に助けなさいって。

ε || ε || ε || ε || ε || ε || ㄣ ( ; , ) ◇ 1 30分後。

馬はちよつとよろよろしてるけどなんとか人を運べそう。

馬に人を乗せて「いこうかあー。」

って。。。日没まであとちよつとしかない！！

ε || ε || ε || ε || ε || ε || ㄣ ( ; , ) ◇ 1 10分後

「コト！遅えぞっ！ってそれどうしたんだよ！！」

と怒っているリュイは無視して。

手当手当。。

「リュイー、この馬馬房につれてってー。」

コイツは。あー。かすり傷が化膿したりしてる。

「ゲッ。」

今更だけど、今更だけど。

イケメンなんですが。。

ミルクティー色の髪に茶色い目。かぁいいー！

ってそうじゃないって。

ε || ε || ε || ε || ε || ε || ㄣ ( ;<sub>1</sub> ◇<sub>1</sub> ) ㄥ 2日後

ウトウトしていると。

ーガバツー

と大きな音たてて起き上がった

「あー、起きましたー？」

「おっおまえはだれだっ。」

「可愛い坊やがお前なんて言葉、使っちゃメツ。」

「ボクは21だが」

「え、」

私より歳上――？

「童顔なんだねえー。あ、とり葉草粥のもつ。ねっ？」

「…」

ミルクティーの髪を長くして後ろで縛ってるところをみれば貴族かなんかでしょう。

「ここは何処だ。」

「村ですが？」

「…、粥を飲もう。」

ε || ε || ε || ε || ε || ε || 「( ; \_ ) ◇ ( )」 35分後

「じゃああなたの名前はアリエスでファオリアにお家があるのね？」

「ああ。」

ファオリアはここから2日だし、見物がてら行ってくるか。

「あと3日したらつれてって上げる。」

「…お前、ボクのこと、知らないのか？」

「初対面ですが？」

「…そうか。ふむ。ボクことはアルと呼んでくれて構わない。」

命令口調だなあ。

「リュイー。」

「なんだよ。」

なぜか扉の外で不機嫌なリュイに話しかける。

「ママに日持ちのいい食料4日分2つ作ってもらってー。」

「は？なんでふたつ？」

「私もいくから」

「はああああ？？！！じゃあ俺も行く！」

「どうぞご勝手にー。旅費自腹ね。」





## 7 人と馬、拾いました。(後書き)

やっとここまでですすんだ

## 8 中継でお伝えします。(前書き)

マジ急展開ですいません。

## 8 中継でお伝えします。

「気をつけてー。」

と見送られるけど、2週間くらいで帰って、ママンとパパンと王都で落ち合う予定。

「アルー。ホント、大丈夫ー？リュイもー謝ってー。」

アルが今日、出発準備中にリュイと喧嘩したらしくて、リュイも辛そうだけど、アルは汗ダラダラ。

「リュイも頑張ってよー。グリズリーがきたら追い払ってー。」

「「グリズリンてなんだよ。」」

サエキアナが中継でつながっています。サエキさーん？。

はい、現場のサエキから中継でお伝えしますこの世界ではグリズリーはいないようです。そしてグリズリンに変換されるようです。以上、現場からお伝えしました。

と、脳内でニュースの撮影の一コマが繰り広げられる。

いや、ね、ホンの出来心ですよ。はい。

そして今更ながら、グリムリンてなんだろう。と思考する。

ていうかわたし、基本臆病で控えめなのにこの世界にきて変わったなあ。強くなったなあ。

色んな意味でb

鍛えられたのか。

そうなのか。

腹筋はどうなったかな。毎日毎日ベッドダイブされてるし、実は強くなってるんじゃない？（口調もヤクザっぽくしてみたっ。

「コトコ、もしなにかあったら人であれば鼻を狙うんだ。鼻は急所だからな。」

「へえー。」

実践される前にリュイが片付けるとおもうけどね。

「ソイツがイキナリ襲って来た時とかな。」

リュイの視線はアル。

「ボツ、ボクがそんな貧相な板になんで手をだすんだイッ？」

「へえー、貧相な板ねえ。」

ーグチャッー

「ウツ。」

「へえー、ホントに凄いのねー。」

アルは顔を抑え涙がでる。う、ちよつと罪悪感。

っでも、貧相な板。。。。。

「お子ちゃま体型きにしてるんだからあっ！」

「おっ俺は好きだぞ。むっ胸なんて脂肪じゃないか。スリムでいいぞっ。」

スリムなのにくびれがないのようー。クソツ。

## 8 中継でお伝えします。(後書き)

```
>a href="http://www.alphapolis.
co.jp/content/access2.php?city|co
nt|id||394017937" target="|blan
k">img src="http://www.alphap
olis.co.jp/content/access.php?cit
i|cont|id||394017937&amp;size||8
8" width="88" height="31" bord
er||"0">/a<よかったらクリックおねがいしま
```

王道詰め込みたい！

実は作者、ニュースモノを書きたくなくて。。スマン。コトコ。そ  
して間違ってるぞ！（間違わせた奴

## 9 色んな意味でカッチャイマシヨウ（前書き）

色々調子にのってます（おい。

いいもーん、私アホだもーん。



## 9 色んな意味でカッチャイマシヨウ

アルはまだ鼻を抑え込み、私を睨みつける。

すると

ーガサガサッー

サツつとリュイが身構える。

できたのは。

「なにこれえー！ー！！かぁiiiiiiiiい？」

小さな物体というか、

マルチーズよりちょっと小さいくらいの動物。

スベスベと水色に輝く鱗。

ビー玉みたいな濡れた金色の瞳。

白い小さな角。

ちょこんと生えた尻尾。

四肢は小さい。

「ドラゴンの赤ん坊だな。」

「ドラゴンの赤ちゃん？おいでー。こっちにおいでー。」

私は馬からおりて腰を落として近づいて行く。

「やめとけ、危険だ。」

「そうだ、第一親が探しているだろう。見つかったら一溜まりも。  
。。。」

「んー、そうなのー、よちよち。」

ドラゴンは何時の間にかコトコお腕の中に収まり、ブンブンと尻尾をふっている。

「ママんがにえ、しんじやたの。でねえ、イキロ、悲しむんじやねえわボケえってゆってね、にがしてくりえたの。」

と舌足らずに一生懸命喋り、コトコになつてゐる。

2人はなにこの子、なんか手懐けてるし、末恐ろしー。と畏怖の目で見てゐるのかかわらず、

「そうなのー、お名前は？」

「ルビィ！でもねえ、ママんにはルーってよばれててやの。」

「ルー君ていうのねー。」

「コトコだいしゅきー？」

なにこの子、本気でー手懷けたよ、高貴なドラゴンを！ーとー、本気で畏怖し始めたアルとリュイだった。

「でねえー、ママンねえー、何しとんじゃワレエツって強かったんだよおー、だからにえ、ルーも強いんだよー。」

コトコはルーの母親は関西弁なのね、とーなっとくしていた

「てことで、この子、私のペットね！ー！！」

色んな意味で負けました。コトコ、あんたはスゴイ。

b yアル&リュイ

そして知らずのうちに色んなモノに色んな意味で勝っているコトコであった。

## 9 色々な意味でカッチャイマシヨウ（後書き）

ファンタジーIIドラゴン、これお約束！

勝つてと飼つてをかけました。

## 10 カミングアウト、しちゃいましょう。(前書き)

ドラゴンのルー君もくわったせいである問題が：

つか、ひらがな多いです。読みにくいです。アルがナルシです。ルーが腹（おいネタバレになっぞ

## 10 カミングアウト、しちゃいましょう。

「食料、どーすんだよ。」

「はへー？」

「そいつの食料。」

「「「あ。」」」

「やっぱり考えてなかったのか。。」

「確かに問題だな。」

「あと一日でつくんだよーーーたいしたことじゃない？」

「そういえばルー、お腹減ったでし。マアは腹は減ってはいくしや  
はできにゅー！！っていったでしゅ。」

「教育がなってるのねー。」

「ボクの方が上だな。」

「そうゆーのをナリユシシュトっていうってママン言ってた！」

「こうゆー大人になっちゃめーよー！！！」

「コトコのお婿さんになりゆんでしゅからなりましえんよー。」

今、さらりと恐ろしいこと言ったぞこのドラゴン。

とおもったリュイとアルであった。

「ドラゴンと結婚できるのー？」

「できましゅよ！いまはむりでしゅけど、大っきくなったら人に化けることができるんでしゅ！ルーは2歳でしゅからあと5年くらいで人の成人にばけれましゅ！」

「そうなんだー。そのDNAやメカニズム、研究したいなあー。」

「ドラゴンの体の神秘は人間の脳の神秘と同じ、つまり、研究不可能だと決まっている。」

「アルって物知りなんだねー。」

「フツ、まあな。」

「いくらガリ勉でもいざとなったら逃げるしかない。その点では俺の武術の方が利便性でいうとはるかに上だな。」

「ルーは魔法も使えて知識もいっぱいだしゅから大っきくなったらそこらのナリユシシュトより利便シェイは天と地の差でしゅ。」

このドラゴン、うぜえ、と思った男2人であった。

「パタパタ飛んでて疲れたでしょう？おいで。」

とコトコは腕差し出す。ルーは喜んで飛び込むがホントはこれっぽっちも疲れていないはずだ。ドラゴンは馬の体力よりもずっと体力があるのだ。

つまり、赤ん坊のルーでも1週間飛び続けたって少ししか疲れないのだ。

ルーが2人を憐れみの目で見たのに殺意を抱いた奴らであった。

一夜あけ、トコトコと歩いていると

「アリエス様ああああ」

と、騎士団らしき奴らがドドドドドドドドドドドドドドドドドと近づいてきた。

砂埃がたつ。

「貴様らああああ、アリエス様を開放しろ！！その御仁を誰だがわかっての行為かああ。」

と先頭の馬にのった騎士が言い放つ。自分ではかっこよく決めたようだ。



「ファオリアに住んでいるナルシなイケメンひ弱男子、アル。つか、アリエスって誰だっけ。なんかきいたことえあるなあー。」

コトコの一言で玉砕する。

「無礼者おおお！そのお方はこの国ファウスト王国の第三王子にあらせられるぞ！！」

「ルー、こうゆうキチガイが一番怖いからねー、あらぬ妄想に取り憑かれちゃって、可哀想に。（現実逃避）」

「ほ、ほんとでしゅねえー。」

今まで散々言いたい放題言ってきたので、現実逃避しちゃうコトコとルー。

リュイはというと固まっていた。

「本当だぞ。」

カミングアウト、しちゃいました。

**10 カミングアウト、しちゃいましょう。(後書き)**

**お約束★**

第一にしたかったのですがこの後色々…w

## 11 閑話1 (前書き)

閑話というか、小噺集そのいちです。書ききれなかったことをW。

## 11 閑話1

夜ーコトコ不在時ー

「おまえりゃ、コトコに気がありゆだりよ!!コトコはおまえりゃ  
なんかアウト・オブ・アイズだぞ!!」

「どこでそんな言葉を覚えるんだ。。。」

「マアが言ってたぞ!アウト・オブ・アイズって目に入りやない、  
ちゅまり気にもしてにやいってことだろ?それに、ライバリユには  
セイシンコウゲキが一番だって言ってたぞ!」

ルーの母親コエーーっと思ったのは内緒です。

朝ーリユカス視点ー

朝か。コトコを起こさねば。

ハッ、今日はベッドダイブができない。。。。

俺の朝の至福があああああ(変態

朝ーコトコ

あれ？今日はリュイがダイブしてこないから腰痛がしない！

実は腰痛だったコトコであった。

朝ーアリエス視点

ベッドで寝なかったのは4回目だが、居心地が悪い。早く風呂に入りたい。

昼ー

「ルーって体温低いのねー！」

「あつくしゆることもできましゅよ？ドリャゴンは体温が調節できるんできゅ。」

「ほへー、便利ねー。」

ひそかに自分専用の抱き枕ができたと思ったコトコであった。

小ネタ

リ「コトコー！もうすぐ1000人だぞー！」

コ「何がー？」

リ「ユニークー！」

コ「ほへえー。1000人も素通りしたのー？」

リ・ル・ア「「「違うから」」」

リ「コトコー！もう9人もお気に入り登録してくれたぞー！」

コ「冗談よして。」

作者…マジですマジですマジありがたいです。

## 11 閑話1（後書き）

リユカスって誰でしたっけ、と思ってる方。リユイデスよ！本名消えかかってました（私の脳内から）。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9495y/>

---

理系のとりっぷらいふ

2011年12月2日14時46分発行